

小中連携教育コーディネータ概論

「小中連携教育コーディネータ養成カリキュラム」

久世 均(岐阜女子大学)

「幼児教育コーディネータ養成カリキュラム」

【目 的】

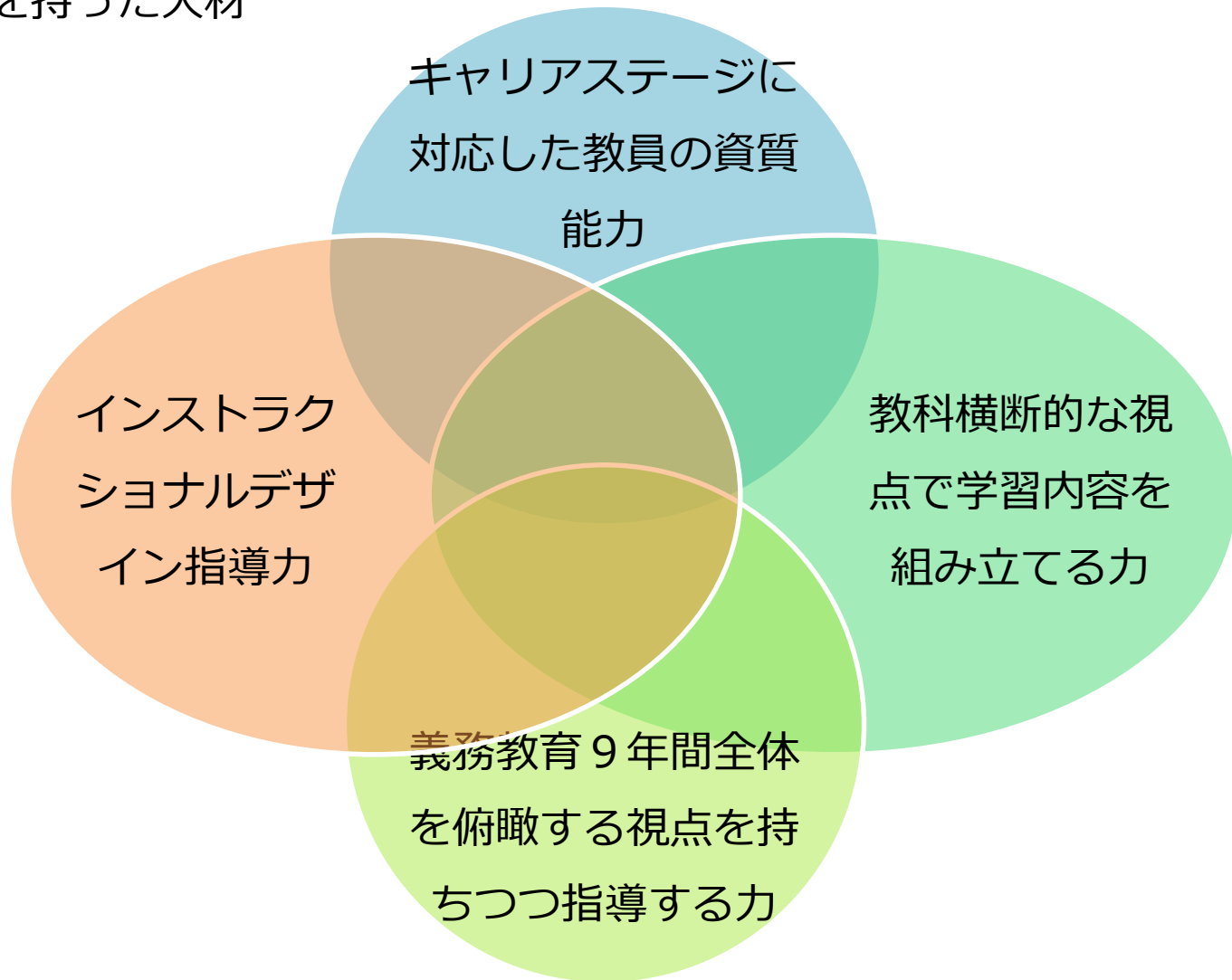
小中連携にまつわる社会的な課題である教員の質の向上は、特に資質向上期の教員を対象に教員免許の併有を推進すると共に、国内外における学校教育の重要性についての認識を高め、学校教育の量の拡充だけでなく、質の向上を求める声を高め、新たな学びを創造する資質が教員にも求められていることの再認識をすることが必要である。ここでは、小中連携教育コーディネータ養成カリキュラムについて考える。

【学習到達目標】

- 小中連携教育コーディネータに求められる資質能力を説明できる。

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力

- 複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた時代の変化に対応した総合的な指導力を持った人材



キャリアステージに対応した教員の資質能力（岐阜県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

学 習 指 導	授業構想
	授業実践
	評価改善
生徒指導	生徒理解
	生徒指導
	キャリア教育
	学年・学校経営
経営・分掌	学年・学校経営
	連携・協働
	危機管理
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応	
ICTや情報・教育データの利活用	

清流の国ぎふ 岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【中学校】

改訂版



～ぎふの人間像～

高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦し、家庭・地域・職場で豊かな人間関係を築き、地域社会の一員として考え行動できる「地域社会人」

～岐阜県が求める教師像～

- ① 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師（学び続ける向上心）
- ② 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師（高い倫理観・使命感）
- ③ 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師（確かな専門性）

	スタートライン	【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
学 習 指 導	授業構想	意欲的に授業実践や学習指導に取り組む。教職の基礎を固める。	学校の枠を超えて実践を積み上げ、専門性を高め、推進力を発揮する。	活力ある学校運営を企画・調整・実践し、リーダーシップを発揮する。	学校管理や他の教員等への指導を行い、広い視野で組織的な運営を行う。
	授業実践	学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。	小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画を作成され、他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画が作成され、全校体制で取り組めるよう働きかけることができる。
	評価改善	教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。	教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確かな基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。	授業モデルを示すなど、授業実践のリーダーとして指導方法を身に付けよう指導・援助を行うことができる。	学校の課題を踏まえ、学力向上に向けた実践を他の教員等に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。
生 徒 指 導	生徒理解	評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次の学習の指導を改善することができる。	適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。	学校の授業力向上に向けた取組の進捗を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。	他の教員等に対して、授業における評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
	生徒指導	進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人の考えや気持ちを理解し、主体的に把握することができる。	生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解し、適切な指導を行うことができる。	様々な情報に基づいて生徒一人一人を多面的・多角的に捉え、適切な指導を行うことができる。	継続的に生徒の行動を見届け、価値付けの指導を行ったり、生徒の成長を促すよう指導を行うことができる。
	キャリア教育	問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。	関係職員と共に生徒の状況を見て、適切な指導方法を判断して対応することができる。	関係職員や保護者等と協力し、生徒の状況を見え、組織を強化して指導方法を判断して迅速に対応することができる。	生徒に対する指導を組織的・計画的に実践できるように体制を整え、問題の未然防止の取組を推進することができる。
経 営 ・ 分 掌	学年・学校経営	担任する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。	学校全体を把握し、課題を改善しながら校務を行うことができる。	校務全般に關して理解を深め、組織を生かしながら校務を推進することができる。	学校の教育目標達成に向けて、校内組織間の連絡・調整を行うことができる。
	連携・協働	教員の職務内容や学校組織等について理解している。	他の教員等のよさに学び、相談・協力することができる。また、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。	組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。	広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。
	危機管理	危機管理の重要性や組織マネジメントに関する基本的な事項等について理解している。	生徒の安全や個人情報等の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にしながら適切に行動することができる。	事故等の発生時や未然防止について、備前に応じて迅速に行動することができる。	学校を取り巻く環境について家庭・地域・関係機関との協力体制を整え、組織的な対応を行うことができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応		特別な配慮や支援を必要とする生徒について、合理的配慮の提供や組織的な対応の必要性を理解している。	一人一人の個性や特性や教育のニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。	多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫・改善を行うことができる。	全般的な支援の充実に向け、組織的な体制による指導の体制を整え、組織的・継続的な支援のために主体的に働きかけることができる。
ICTや情報・教育データの利活用		ICTを活用した学習指導や校務の推進及び生徒の学習状況を把握するための活用方法を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、生徒の学習状況を把握するための活用方法を理解している。	ICTを効果的に活用した授業実践を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。	自らのICT活用能力を高め、これまでの経験を生かした活用方法を推進したり、実践し続けることができる。

【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
自分の得意な内容、領域を見付けられる。	- 自分が得意な内容、領域を磨いている。 - 他の人が持っているものよさに気づき、取り入れる。	- 自分の知恵や経験が他の人に有用であることに気付く。 - 異なる見方や価値観を受け入れ、面白いと感じる。	- 自分の知恵や経験を活かす場がある。 - 自分の知恵や経験を伝える。

教員が成長し続けるために大切な姿

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力（１）

岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 【中学校・資質向上期】

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに求められる資質能力
学 習 指 導	授業構想	(1)学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 (2)小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。
	授業実践	(1)教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 (2)教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。
	評価改善	(1)評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。 (2)適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。
生徒指導	生徒理解	(1)進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 (2)生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。
	生徒指導	(1)問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 (2)関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。
	キャリア教育	(1)生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 (2)生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
経営・分掌	学年・学校経営	(1)担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。 (2)学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。
	連携・協働	(1)他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。 (2)組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。
	危機管理	(1)生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。 (2)事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応		(1)一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 (2)多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 (2)ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力（２）

インストラクショナルデザイン指導力

※ インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。

※ インストラクショナルデザインとは、「何を（What）できるようにするのか？」を明確にしたうえで、「どうやって（How）できるようにする

のか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに必要な資質・能力
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に関与する自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	研修成果の評価	
	ワークショップ	
	教育リソース	(6)全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

小中連携教育コーディネータの資質・能力の構造化

資質・能力カテゴリー		幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
学 習 指 導	授業構想	①学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 ②小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。 ③教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 ④教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。 ⑤評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。 ⑥適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。
	授業実践	
	評価改善	
生徒指導	生徒理解	①進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 ②生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。 ③問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 ④関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。 ⑤生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 ⑥生徒が見通しをもちたり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
	生徒指導	
	キャリア教育	
経 営 分 掌	学年・学校経営	①担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。 ②学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。 ③他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。 ④組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。 ⑤生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。 ⑥事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。
	連携・協働	
	危機管理	
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		①一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 ②多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。
ICTや情報・教育データの利活用		①授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 ②ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	研修成果の評価	
	ワークショップ	
インストラクショナルデザイン指導力	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

新たなキャリアである小中連携教育コーディネータの養成カリキュラムの開発

目 的

「義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより、小中連携教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ること」を目的としている。

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するもの。

【履修証明プログラム】

本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するもの。

コース名	小中連携教育コーディネータ養成コース (第1期～第3期(100名定員/期))
趣旨・内容	本課程は、「義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより、小中連携教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ること」を目的としている。
対象者	次の(1)～(3)に該当する方とします。 (1) 中学校教諭普通免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、当該学校における教諭等として在職年数が3年以上の方注1)。 (注1)に該当する方については、コース修了により小学校2種免許状を申請可能) (2) 小学校や中学校教諭免許状所持者でスキルアップを目指す方。 (3) 小学校や中学校にお勤めで、小中連携教育に興味がある方。
総時間数	9科目 121時間(履修証明プログラムは60時間以上)
コース修了条件	各講習における試験またはレポートによる最終試験を全て合格すること。
出願書類	1. 履修証明プログラム受講申請書 2. 写真 2枚

小中連携教育コーディネータの開設科目

科目区分	科目名	授業形態	時間数	講義内容(案)
大学独自科目	小中連携教育コーディネータ概論	ハイブリッド型	15	義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につける。
各教科の指導法に関する科目 (5科目10単位) (所有する全ての中学校教諭免許相当する教科を除く)	初等教科教育法（国語）（書写を含む）	ハイブリッド型	15	学習指導要領 国語科の目標、指導内容・方法を理解する。国語科の持つ特質を踏まえ、言語力の育成を重視しながら、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行い模擬授業を行って、目標到達の授業ができる力を身につける。
	初等教科教育法（算数）	ハイブリッド型	15	小学校算数科教育の目標と指導内容を理解する。そして、基本的な学習指導案の形式を理解し、算数科の目標達成のための教材研究の仕方や指導方法を理解する。また、評価についても理解する。算数の授業を仕組む基本的力を身につける。
	初等教科教育法（体育）	ハイブリッド型	15	学習指導要領をもとに、体育の意義、目標、内容について理解し、指導案作成に必要な事項を理解し、作成する。また、作成した指導案をもとに模擬授業を行い、振り返りを行う。
	初等教科教育法（音楽）	ハイブリッド型	15	①表現及び鑑賞の活動を通して音楽の諸要素の味わいを感じ取ることが音楽科学習で最重要事項であることを知的感覚的に理解する。 ②音楽指導の各分野について、指導事項とその系統を理解するとともに、活動を通して確実に力が身に付けられる指導の流れを工夫・創造する。 ③楽曲分析の力を付け、曲のもつよさや味わいを音楽の諸要素の面から明らかにする。
	初等教科教育法（理科）	ハイブリッド型	15	小学校学習指導要領（理科）をもとに、理科授業の理論と方法を学びそれら基礎的事項を理解することができる。
	初等教科教育法（外国語）	ハイブリッド型	15	小学校を中心とした新学習指導要領の理念を理解し、その理念に基づいた指導と評価の実践力を養成する。
生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 (1単位)	生徒指導論（進路指導を含む）	ハイブリッド型	8	生徒指導論は、一人一人の児童生徒の望ましい人格の成長・発達を図るための指導や援助に必要な知識と技術の習得を目的とする。
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 (1単位)	教育相談Ⅱ（カウンセリングを含む）	ハイブリッド型	8	カウンセリング理論や技法を含めて、学校における教育相談の基本的な考え方や態度を習得する。また学校における児童生徒の諸問題について心理的視点からの理解と対応や学校教育相談体制の中での連携の在り方について理解する。

小中連携教育コーディネータの資質・能力の教科毎の構造化（１）

科目名	講義内容(案)	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
小中連携教育コーディネータ概論	義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につける。	①授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 ②ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。 (1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (6)全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。
初等教科教育法（国語） （書写を含む）	学習指導要領 国語科の目標、指導内容・方法を理解する。国語科の持つ特質を踏まえ、言語力の育成を重視しながら、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行い模擬授業を行って、目標到達の授業ができる力を身につける。	①学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 ②小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。 ③教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 ④教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。 ⑤評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。 ⑥適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。
初等教科教育法（算数）	小学校算数科教育の目標と指導内容を理解する。そして、基本的な学習指導案の形式を理解し、算数科の目標達成のための教材研究の仕方や指導方法を理解する。また、評価についても理解する。算数の授業を仕組む基本的力を身につける。	
初等教科教育法（体育）	学習指導要領をもとに、体育の意義、目標、内容について理解し、指導案作成に必要な事項を理解し、作成する。また、作成した指導案をもとに模擬授業を行い、振り返りを行う。	
初等教科教育法（音楽）	①表現及び鑑賞の活動を通して音楽の諸要素の味わいを感じ取ることが音楽科学習で最重要事項であることを知的感覚的に理解する。（一部略）	
初等教科教育法（理科）	小学校学習指導要領（理科）をもとに、理科授業の理論と方法を学びそれら基礎的事項を理解することができる。	
初等教科教育法（外国語）	小学校を中心とした新学習指導要領の理念を理解し、その理念に基づいた指導と評価の実践力を養成する。	

小中連携教育コーディネータの資質・能力の教科毎の構造化（２）

科目名	講義内容(案)	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
生徒指導論 (進路指導を含む)	生徒指導論は、一人一人の児童生徒の望ましい人格の成長・発達を図るための指導や援助に必要な知識と技術の習得を目的とする。	①進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 ②生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。 ③問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 ④関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。 ⑤生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 ⑥生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
教育相談Ⅱ (カウンセリングを含む)	カウンセリング理論や技法を含めて、学校における教育相談の基本的な考え方や態度を習得する。また学校における児童生徒の諸問題について心理的視点からの理解と対応や学校教育相談体制の中での連携の在り方について理解する。	①一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 ②多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。

インストラクショナルデザインとは

インストラクショナルデザイン

インストラクション
Instruction

デザイン
Design

教授、授業、指示
行動を引き出すため
の仕掛け

設計

インストラクショナルデザインとは

インストラクショナルデザイン (ID : Instructional Design)

教育活動の効果的・効率的・魅力的な学習環境をデザインしていくための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して学習支援環境を実現するプロセスのこと

「インストラクショナルデザイン」

効果的・効率的・魅力的とは

- 効果的：学習者が目標に到達する
- 効率的：短時間で学習目標に到達する
- 魅力的：もっと学びたいという気持ちに

学習目標・評価方法・教授手法の明確化 教材開発のスタート

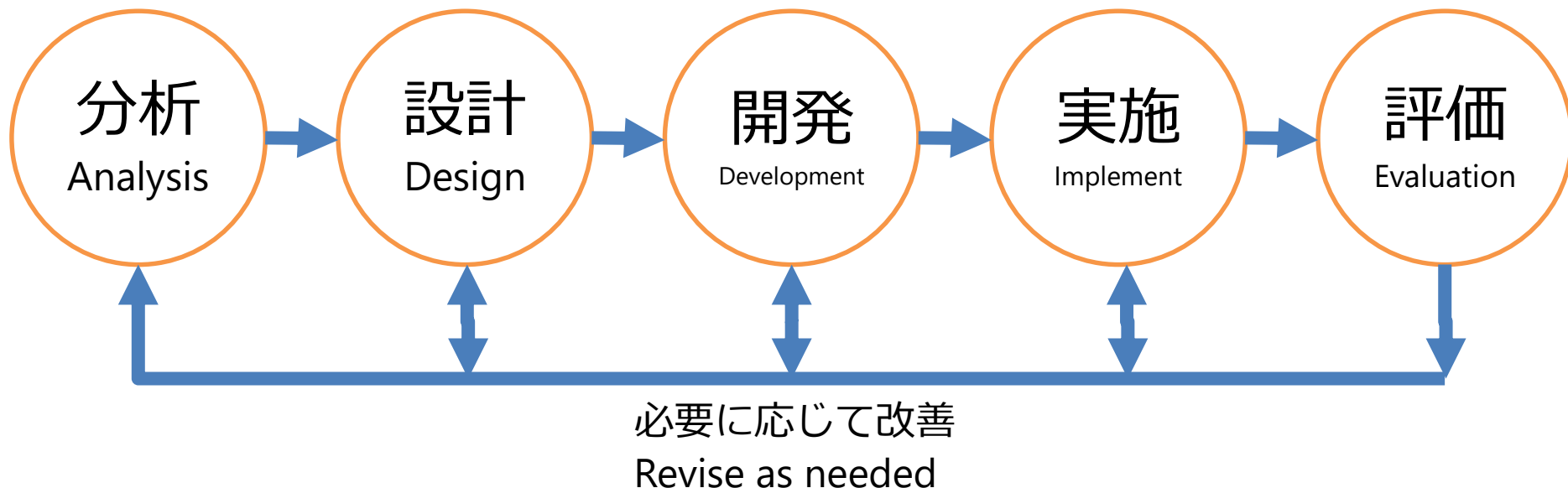
- 学習目標
 - 学習者に何ができるようになってほしいのか
- 評価方法
 - どのような状態になればその目標を達成したとするか
- 教授手法
 - 目標を達成するためにはどのような方法がよいか

ADDIE

教材開発を進めるプロセス

ADDIEモデル

- 基本的なIDプロセス



ADDIEの各プロセス

Analyze （分析）	学習者の特性、教育内容を分析
Design （設計）	目標設定、教授手法決定
Development （開発）	教材を作成する
Implement （実施）	実際に教授を行う
Evaluation （評価）	教材が目標を達成するのに役立ったかどうか評価

課 題

1. 小中連携教育コーディネータに求められる資質能力を説明しなさい。
2. インストラクショナルデザイン指導力について具体例を挙げて説明しなさい。
3. インストラクショナルデザインを活用した授業改善について、具体例を挙げて説明しなさい。

「幼児教育コーディネータ養成カリキュラム」

【目 的】

小中連携にまつわる社会的な課題である教員の質の向上は、特に資質向上期の教員を対象に教員免許の併有を推進すると共に、国内外における学校教育の重要性についての認識を高め、学校教育の量の拡充だけでなく、質の向上を求める声を高め、新たな学びを創造する資質が教員にも求められていることの再認識をすることが必要である。ここでは、小中連携教育コーディネータ養成カリキュラムについて考える。

【学習到達目標】

- 小中連携教育コーディネータに求められる資質能力を説明できる。

小中連携教育コーディネータ概論

「小中連携教育コーディネータ養成カリキュラム」

久世 均(岐阜女子大学)